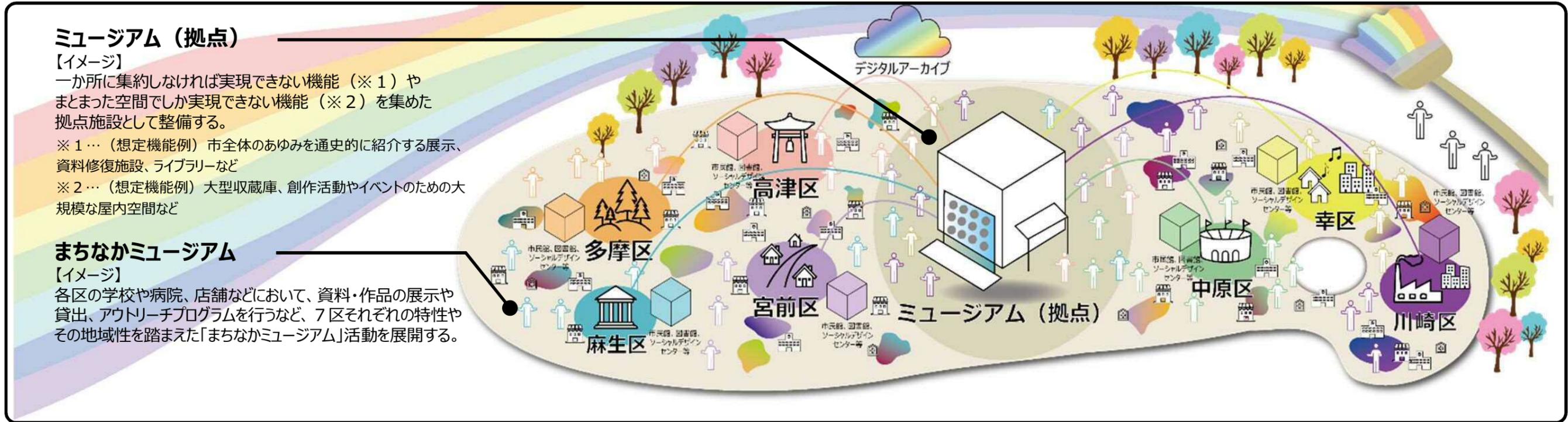


1 新たなミュージアムの事業イメージについて

(1) 新たなミュージアムのイメージ（案）【再掲】

・ 拠点となる「ミュージアム」施設を整備するほか、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりに貢献するため、市内で「まちなかミュージアム」の活動を展開する。



ミュージアム（拠点）

【イメージ】

一か所に集約しなければ実現できない機能（※1）やまとまった空間でしか実現できない機能（※2）を集めた拠点施設として整備する。

※1…（想定機能例）市全体のあゆみを通史的に紹介する展示、資料修復施設、ライブラリーなど

※2…（想定機能例）大型収蔵庫、創作活動やイベントのための大規模な屋内空間など

まちなかミュージアム

【イメージ】

各区の学校や病院、店舗などにおいて、資料・作品の展示や貸出、アウトリーチプログラムを行うなど、7区それぞれの特性やその地域性を踏まえた「まちなかミュージアム」活動を展開する。

(2) 新たなミュージアムの事業の位置づけ

■ 事業の関係性

1 収集・保管、調査研究、展示

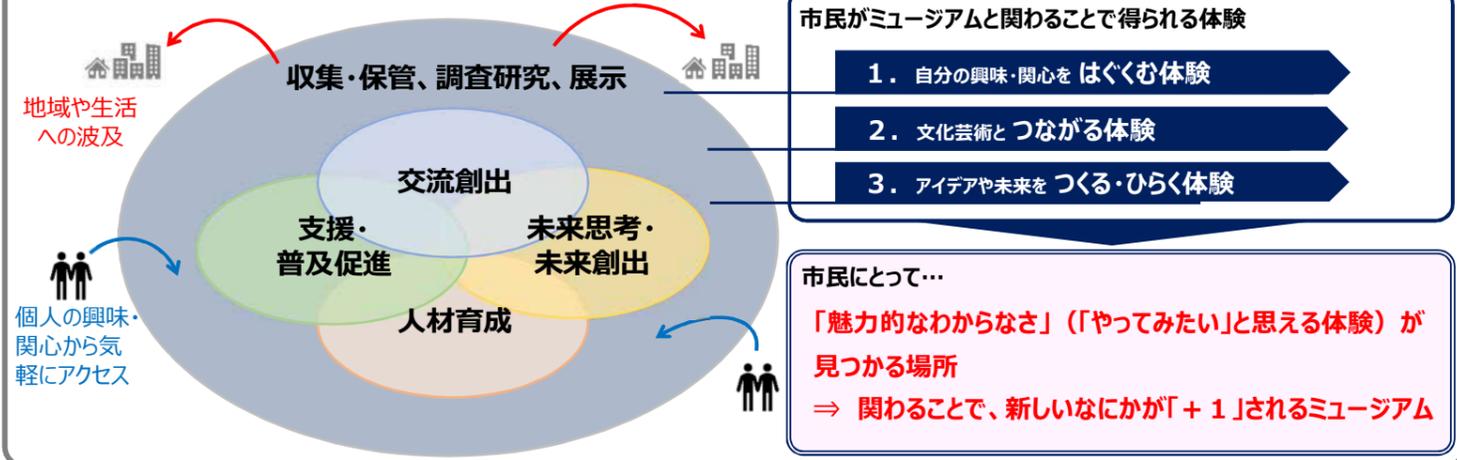
2 交流創出

3 支援・普及促進

4 未来思考・未来創出

5 人材育成

■ 事業が市民や地域にもたらす効果



・ 新たなミュージアムの事業は、「①収集・保管、調査研究、展示」を基盤としつつ、②～⑤の各事業については「①収集・保管、調査研究、展示」との関係性を意識しながら、具体的な取組を行っていく。

・ 各事業については、ミュージアムの「使命」や「めざす姿」の実現と、その先の市民や地域のニーズを意識し、市民生活や地域社会にもたらす効果を念頭に置いた展開を目指す。

(3) 新たなミュージアムの事業展開について

・ 第2回懇談会で示した「新たなミュージアムのイメージ（案）等について」を基に、懇談会でいただいたご意見や他施設の取組等も参考としながら検討を進め、それぞれの事業ごとにベースとなる「基本的な取組」と、川崎の持つポテンシャルや新たなミュージアムが持つ特徴（「博物館、美術館の融合」、「被災や収蔵品修復を通じて得た知見や技術」、「多様な資料・作品」など）を活かした「特徴的な取組」に大別し、「事業展開イメージ（案）」として整理した。（次ページ参照）

・ 「事業展開イメージ（案）」については、川崎のミュージアムとしてどの部分に力を入れていくべきなのかを引き続き検討し、基本構想で一定の方向性を整理するとともに、その後の基本計画等においてより具体的な事業を検討していくこととする。

・ 今後、事業を実現するためには、多岐にわたるミュージアム活動全体を総合的にマネジメントできる組織や管理運営の仕組みを中長期的に検討していく必要がある。そのため、学芸員のあり方や市民参画の手法などについて今後の基本計画等で検討を進めるとともに、市民に対して開館前から新たなミュージアムに興味・関心を持ってもらえるように、意識の醸成につながるプログラム（ワークショップ等）の実施を検討していく。

新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について

（4）新たなミュージアムの事業展開イメージ（案）

収集・保管、調査研究、展示

収蔵資料を、過去、現在の川崎の姿を捉え、紐解き、未来を考えるための素材として活用する

■基本的な取組（案）

- 川崎に関連する歴史民俗資料や川崎ゆかりの作家の作品・資料、現代美術作品等の収集
- 収蔵品の適切な保管や保存修復管理
- 収蔵品の調査研究
- 調査研究に基づいた展示公開

■特徴的な取組（案）

- 博物館、美術館が融合したミュージアムならではの展示（市民生活に身近なテーマを設定し、博物館、美術館両方の視点からのアプローチにより、物事の多様な見方や感じ方ができる場をつくる）



- 収蔵品修復活動への市民参加（市民参加型の修復活動を実施することで、被災の事実を伝えていくとともに、知見や技術を継承、発信していく）



大阪市立美術館
古文書の補修体験

陸前高田市博物館
文化財レスキューの資料修復をテーマにした展示

- 収蔵品や街なかの文化芸術資源を、市民と一緒に記録保存（学芸員だけではデジタル化しきれないものを市民の力を借りてデータ化する）



出典：PR Times
福島県磐梯町
スマートフォンを利用した、住民参加型のワークショップ

交流創出

博物館、美術の枠を超えた交流を創出し、多様性の理解を育み、新たな価値や発想を生み出す

■特徴的な取組（案）

歴史を共通項に多様な市民がつながる

記憶のコミュニケーション

川崎を中心として過去に流行った、昔や今の様々なプロダクトを集めた展示により、モノを介した対話を通じてコミュニケーションを促す。



出典：カップヌードルミュージアム
「歴史キューブ」

歴代のカップ麺が部屋の壁中に時代ごとに並べられており、自分が食べた製品等について記憶を広げて楽しむことができる



新しく川崎市民となった方に地域を紹介

川崎デビューサポート

新しく川崎に住み始めた人に、川崎の特徴を伝えながら、集まった人同士の交流を生む事業を定期的に行う。



出典：お茶ナビゲート
お茶ナビゲート
地域の歴史や古写真、街歩きスポットを紹介する展示を配置した観光案内機能も持つ施設。交流イベントも実施している。

■基本的な取組（案）

- 対話型鑑賞会
- ワークショップやトークイベント
- 市民団体や学校、企業等との連携
- 博物館、美術の枠に捉われない多様な分野との共創

ダンスや音楽等の表現ができる

多様な表現の場

博物館、美術の枠にとらわれない、音楽やダンスなど多様な表現活動での利用が可能な場を提供する。（多様な分野との共創）



出典：YCAM
山口情報芸術センター[YCAM]

メディアテクノロジーでダンスをパワーアップするワークショップや、メディア・テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する、3日間のスポーツクリエイション合宿を行う。

支援・普及促進

市域の文化芸術を、誰もが身近なものとして楽しみ、親しみながら携わることができる活動を展開する

■特徴的な取組（案）

遊びを入口に文化芸術への興味を刺激する

体験のあそび場

普段なかなかできない文化芸術体験を、大人も子どもものびのびと楽しめる。汚してもよい図画工作や、土器づくり体験や民具の操作ができる。



出典：あぞみ野
横浜市民ギャラリー
子供や親子が楽しめる自由な創作空間を設置



出典：加曾利貝塚博物館講座
加曾利貝塚博物館講座
遺跡から出土した本物の縄文土器を見ながら、縄文人と同じ方法で本格的な土器づくりに挑戦

今まで利用しにくかった層の方に対応していく

アフターファイブミュージアム体験

平日学校や会社が終わった後に訪れやすい開館時間設定とし、夜間ならではの対象者層を想定したイベントを展開する。



出典：八戸市美術館
八戸市美術館
ほろ酔い鑑賞「ほろ8」
美術館向かいにある八戸酒類の旬の地酒をいただいた後に作品を鑑賞する（19時～20時）



出典：東京国立近代美術館
東京国立近代美術館
「フライデー・ナイトトーク」
毎週金曜の夜に参加者とトークを交わしながら1作品を掘り下げて鑑賞する

■基本的な取組（案）

- 出張展示や収蔵品貸出（まちなかミュージアム）
- 市民や川崎ゆかりの作家等の文化芸術活動の支援
- ベビーカートゥーなど子育て世代向けのプログラム
- 高齢者や障がい者の方向けのプログラム

作品販売を行って作家に還元し作家を支援する

作家還元型NFT事業

川崎ゆかりの作家や市民等の作品の展示とともに、希望に応じて作品の販売を行い、売り上げを還元することにより創作活動を支援する。



出典：NFT専門店
NFT専門店
日本で初めてNFTアートを取り扱う美術館として設立。美術品及びアート作品の展示のみならず、アート作品に関するNFTの発行、審査、販売、流通を行う。

未来思考・未来創出

市民の自ら思考する力を養い、ともにまちと主体的に関わり、地域的、社会的課題に取り組む

■特徴的な取組（案）

歴史や文化の視点から川崎の未来を考える

未来想像ラボ・ワークショップ

川崎の未来のヒントを散りばめた展示空間や対話の場を設け、みんなで未来について考える。



出典：ふじのくに地球環境史ミュージアム
ふじのくに地球環境史ミュージアム
「地球家族会議」
地球環境リスクの一つをテーマとして対話。

文化芸術を福祉の分野に活用

ミュージアム処方箋（文化的処方）

ミュージアムの持つ収蔵品や人材を活用し、認知症等の問題を抱える市民に対し、改善・解決に向けた新たな視点で寄与する。



出典：東京都美術館
東京都美術館「オレンジカフェ（認知症カフェ）」
孤立リスクやストレス減少を目的に、アートコミュニケーションとペアとなり、専用の時間を設けて企画展を鑑賞・体験しながら対話し、感じたことや思い出を共有。

■基本的な取組（案）

- 時代に対応したデジタル技術等の活用
- 地域や社会が抱える課題に対しての文化芸術の活用
- 思考や問いかけを促す対話型のプログラム
- ミュージアムが持つ収蔵品からアイデアを考える取組

子どもが作るミュージアムを大人が体験する

子どもプロデュースミュージアム

展示やイベントを子どもたちが中心になって企画し、学芸員や大人が全力でそれを形にするサポートし、子どもの視点から生まれる未知のミュージアムに挑戦する。



出典：八戸市美術館
八戸市美術館「大きな絵プロジェクト」
地域の学校と美術館が連携して、学生のアイデアで展示を実現する。



出典：アーブル美術館
「アーブル美術館」
ルーブル美術館が大好きな親子が模写作品をネットや企画展で発表している。

人材育成

市民の好奇心や探求心を深め、主体的に学ぶ気持ちと呼び起こし、地域社会の担い手となる人材を育成する

■特徴的な取組（案）

市民自身が成長しながら媒介者となる

市民コミュニケーター

館と利用者をつなぐコミュニケーターを市民の中から募って組織化し、活躍できる仕組みを作る。



出典：東京都美術館
東京都美術館「とびらプロジェクト」
一般公募のアート・コミュニケーター「とびら」と、学芸員や大学教員、専門家が美術館を拠点とし、そこにある文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開。

将来の美術の担い手を育成する

シェアアトリエ

美術大学の学生等に制作や展示の場を提供することで、将来的な地域におけるアートの担い手を育成。（長期的な視点で、川崎の文化芸術を支えてくれる人材を育てる。）



出典：金沢経済新聞
金沢アートコミニティ
金沢アートコミニティ
金沢美術工芸大学の学生アトリエをギャラリーに丸ごと引越させ公開制作を行う展覧会



出典：ONVO STUDIO
ONVO STUDIO
INAMACHI「シェアアトリエ・レンタルスペース」
アーティストの制作を目的とした利用を原則とするレンタルスペース

市民アーティストや研究者をマッチング

人財データベース

市内で芸術活動や調査活動を行っている市民や団体をデータベースに登録し、市内のイベント等で活躍してもらえる仕組みを作る。



出典：熊本市現代美術館
熊本市現代美術館「登録アーティスト制度」
コンサートや舞踊、演劇などの催しに出演者を紹介する事業。WEB上で、登録アーティストの一部を紹介。出演依頼や登録の希望も受け付けている。

新たなミュージアムの事業及び施設（諸室）のイメージ（案）について

2 新たなミュージアムの施設（諸室）イメージ（案）について

・ 新たなミュージアムの5つの事業の位置づけを踏まえ、基本エリアと3つのエリアに整理し、体験別に諸室とエリアを対応させることで、興味に応じて利用しやすい施設を目指して検討していく。

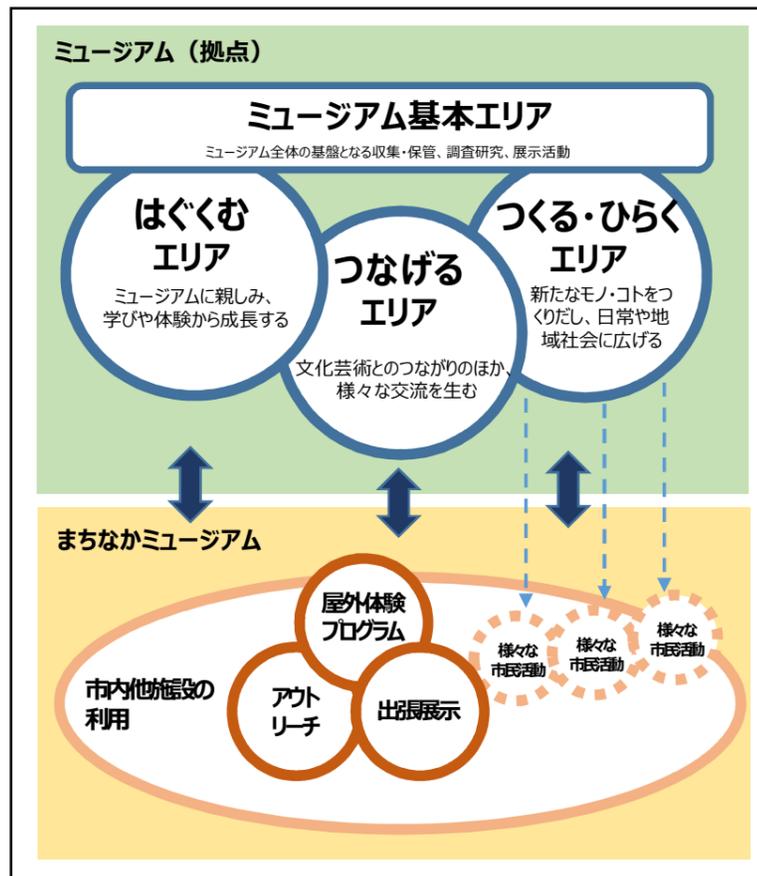
(1) ミュージアム（拠点）施設における各エリアの考え方

基本エリア	「はぐくむ」エリア	「つながる」エリア	「つくる・ひらく」エリア
収集・保管、調査研究、展示に関わる、ミュージアムを支える基礎的な活動を行う 館が主体となって取り組むミュージアム活動の基盤であり、他の3つのエリアを支える場	ミュージアムに親しみ、学び、新たな興味・関心が生まれるような活動を行う 利用者が様々な事業に参加する中で、自分の興味を行動に移してみたり、学びを通して成長できる場	様々な人々が自分の興味関心から気軽に訪れ、文化芸術とつながるきっかけを得る 利用者が興味の赴くままに利用したり、利用者同士が出会う中で、文化芸術やヒトとの新たなつながりを見つけられるきっかけとなる場	文化芸術からヒントや刺激を受けて、新たなモノ・コトをつくり、将来への展望を拓く 利用者が自らの興味・関心からモノ・コトを具現化したり、自分の日常に文化芸術を採り入れるヒントやアイデアを発見する場
対応する事業：「収集・保管」、「調査研究」、「展示」	対応する事業：「展示」、「支援・普及促進」、「人材育成」	対応する事業：「交流創出」	対応する事業：「未来思考・未来創出」
想定される主な諸室 ・ 収蔵庫 ・ 燻蒸庫 ・ 常設展示室 ・ 研究室 など	想定される主な諸室 ・ 企画展示室 ・ 研修室 ・ ギャラリー（貸出可能なフレキシブルな展示スペース） ・ コミュニケーター活動室 など	想定される主な諸室 ・ 多目的スペース（イベントスペース） ・ コミュニケーションルーム（「対話」「記憶」「五感」などのキーワードで体感・体験できるような部屋） ・ アーティスト・イン・ミュージアム用スペース ・ カフェ・ショップ など	想定される主な諸室 ・ ファブラボ ・ ワークショップスペース ・ スタジオ（様々な用途で利用可能） ・ 未来想像ラボ（川崎や社会の未来を想像・体感できる部屋）
まちなかでの展開 市内他施設やデジタル技術を活用した出張展示等の実施により、ミュージアムの活動に気軽に触れられる環境をつくる	まちなかでの展開 各種アウトリーチプログラムや市民コミュニケーター活動の実施により、市民の興味・関心を育む	まちなかでの展開 市内各所で体験プログラム事業を実施し、日常の中に文化芸術とつながるきっかけを作る	まちなかでの展開 この場所で生まれたモノ・コトがミュージアムを飛び出し、まちなかで新たな展開を起こしていく

(2) 拠点とまちなかミュージアムの考え方

・ ミュージアム（拠点）での活動を市民により身近に感じてもらえるよう、市内他施設を有効活用しながら、アウトリーチ活動や体験プログラム等の取組を行い、市民や地域と多くの接点を作る「まちなかミュージアム」の実現を目指して検討を進めていく。

ア ミュージアム（拠点）とまちなかミュージアムの関係性



イ まちなかミュージアムの展開イメージ（案）

市内他施設との連携

市内の既存施設と密な連携をとり、各区で定期的なミニ展示やイベント等を行う。

貸しギャラリー施設や生涯学習施設、市民館、区役所などのスペースを借りて、施設環境に応じた出張展示を行うほか、デジタルサイネージ等のデジタル技術も積極的に活用し、展示・情報発信の場として効果的な連携を行う。

現在の市民ミュージアムの出張展示等を発展被災後に行っている出張展示の取組を今後にもつなげていく。これまでよりもネットワーク作りを力を入れる。

出典：銀座 高屋書店

デジタルサイネージ等の活用
市内他施設のデジタルサイネージ等を通じて、デジタル化した作品の展示やミュージアムの情報発信を行う。

まちのお宝発見ツアー（エコ・ミュージアム）

市民と一緒に市内の文化芸術スポットを発見・記録し、市内外に発信することにより、川崎市域の魅力向上につなげる。

まちなかの様々な魅力を川崎の「宝」としてみんなで認定していく。認定したスポットを巡るガイドを作ったり、定期的にツアーをすることで、市内外の人々が、川崎のあちこちにある文化芸術の魅力に触れる機会を作る。

※川崎区では先駆的な取組あり

出典：萩市観光協会

萩まちじゅう博物館
NPO法人が、萩市のまちを屋根のない博物館と見立て、まちじゅうに点在する「おたから」を保存・活用する活動を市と協働で推進。

まちなか体験プログラム

ミュージアム発のモノ・コトを活用した体験プログラムを実施し、多様な楽しみ方を提供する。

ミュージアムから生まれた様々なモノ・コトを活用し、屋内に促われず、市内各地でふらっと気軽に立ち寄れるような体験プログラムを展開する。

出典：森ビル㈱

森美術館「みらまちキャンプ」
六本木ヒルズ内を探検しながら街を観察し、未来の街についてみんなで考え、自由なアイデアを創造する探究型のプログラム。

出典：東京都歴史文化財団

東京メトロ・国立美術館ほか「7つの謎解きミステリーラリー」
参加する各館のアート作品や建築、駅のパブリックアートを実際に鑑賞し、そこに隠された謎を全て解き明かすと、抽選で素敵な賞品が当たるイベント。

アウトリーチ用ミュージアムキット

アウトリーチや課外活動等で活用できるミュージアムキットを作成し、気軽にミュージアムの資料・作品に触れ、楽しめる仕組みを作る。

資料・作品、ワークシート、VR端末などのデジタル機材などを組み合わせ、学芸員のアウトリーチの際に活用するほか、学校等に貸し出して自由に活用できる仕組みを作る。

出典：あいうえの

あいうえの「ミュージアムスタートバック」
こどもたちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キット

出典：川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム「アートカードセット」
美術作品をカードに仕立て、カードを用いた様々なゲームを通して美術作品に親しむことや、観察力や思考力、表現力などを楽しみながら身につけることができる。